



「2003豊かなウォーターフロント」 フォトコンテスト

本コンテストは、海・海辺の四季折々、津々浦々の姿を、写真を通じて表現して頂き、ともしれば日常、海や海辺と疎遠になりがちな方々に対して「海・海辺」の素晴らしさを再認識して頂くとともに、ウォーターフロントの景観に対する意識を啓発することを目的としています。

ウォーターフロントフォトコンテストも12回目となり、今回は港や海辺の人々とのかわり、そして港や海辺における自然と風景をテーマにした写真の募集を行いましたところ、473点の様々な作品の応募があり、平成15年11月10日、日本港湾協会会議室において厳選なる審査を行い以下の通り入選作品が決定されました。

テーマ

「みなと・海辺の人々、自然」

マリナーや海岸等で憩う人々
みなとや海辺のイベントに集う人々
港湾での活力ある物流活動
人と海がふれあう海岸
美しい魅力のあるみなとや海辺の景観
押し寄せる高波など自然の脅威
安全で親しまれる海岸
みなとにおける干潟や海辺の生物などの自然環境
やわらかな感性をはぐくむ水辺
ゴミ、放置艇等のみなと周辺の社会的な問題 など

主催 社団法人 日本港湾協会、港湾海岸防災協議会
後援 国土交通省
協賛 コニカ株式会社
社団法人 日本旅客船協会
社団法人 ウォーターフロント開発協会
社団法人 日本外航客船協会
社団法人 日本マリナー・ビーチ協会
財団法人 港湾空間高度化環境研究センター
財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター

審査会場 (社)日本港湾協会 会議室

審査日 平成15年11月10日

審査員 (順不同・敬称略)

齋藤 潮
東京工業大学教授
富岡 畦草
写真家
松野 正雄
写真家
生内 玲子
ルポライター
林田 博
国土交通省港湾局環境整備計画室長
須野原 豊
国土交通省港湾局海岸・防災課長
栢原 英郎
社団法人 日本港湾協会理事長

入賞作品

国土交通大臣賞
「東京ベイサイト」
伊藤 建自(千葉県八千代市)
港湾局長賞
「飛鳥寄港」
田中 富美穂(熊本県八代市)
日本港湾協会会長賞
「われは海の子」
橋本 正夫(岡山県玉野市)
港湾海岸防災協議会長賞
「荒れる港」
里瀬 勝(北海道広尾町)
北海道開発局長賞
「霧笛コンサート」
柳堀 利和(北海道釧路市)
東北地方整備局長賞
「冬晴一日」
工藤 純(秋田県象潟町)
関東地方整備局長賞
「超高速船」
小高 紘佑(神奈川県横浜市)
北陸地方整備局長賞
「蒸気霧の朝」
西川 清(富山県高岡市)
中部地方整備局長賞
「タグボート」
飯田 忠雄(静岡県静岡市)
近畿地方整備局長賞
「朝日映す」
藤原 素子(大阪府大阪市)
中国地方整備局長賞
「港内はべた凧」
高田 肥明(兵庫県神戸市)
四国地方整備局長賞
「船上卒業式終えて」
石角 尚義(香川県三野町)
九州地方整備局長賞
「みあれ祭」
中村 一浩(佐賀県北茂安町)
沖縄総合事務局会長賞
「美ら海」
宮里 幸吉(沖縄県那覇市)

佳作(40点)

村中 隆典(北海道釧路市)
飯田 能之(神奈川県平塚市)
北橋善一郎(北海道釧路市)
北山 隆一(青森県八戸市)
小坂 善男(東京都北区)
石川 忠男(神奈川県横浜市)
山中 健次(和歌山県かつらぎ町)
原田 恵一(東京都八王子市)
中桐 敬二(東京都杉並区)
齋藤 清(東京都大田区)
岩上 行得(東京都文京区)
平賀 洋子(神奈川県横浜市)
宮沢 千春(長野県更埴市)
滝上 正行(富山県新湊市)
鹿島 秀夫(埼玉県さいたま市)
野末 園(三重県津市)
井上 佳計(東京都国分寺市)
山田 英雄(静岡県静岡市)
野末 輝雄(三重県津市)
安藤テル子(静岡県静岡市)
清水喜一郎(兵庫県神戸市)
松浦 義教(和歌山県和歌山市)
木下 正治(京都府京都市)
串田 宏好(兵庫県神戸市)
杉江 輝美(兵庫県明石市)
中村 公一(香川県高松市)
宮本 雅光(香川県大野原町)
横山 昭人(香川県観音寺市)
餘野 照彦(大分県三光町)
本山 繁敏(長崎県時津町)
松本 伸男(宮崎県宮崎市)
伊地知貴顕(鹿児島県鹿児島市)
浦川 武弘(長崎県長崎市)
伊藤 蓉子(福岡県春日市)
黒木 男(宮崎県日向市)
宮地 敏雄(佐賀県佐賀市)
平良 幸江(沖縄県宜野湾市)
長堂 嘉秀(沖縄県那覇市)
長堂とみえ(沖縄県那覇市)
兼島 正(沖縄県那覇市)



総評

回を重ねるにつれ、趣旨が理解されて、的外れな応募作品がなくなったことを、うれしく思います。

ご存じのように、日本は島国でも南北に長い弧状列島で、海岸線は3万3千キロメートルにも及び、四季折々の海の景観を楽しむことができます。そして、時には優しく時には厳しく、人

間に問いかける海とのかかわりは、実に多様な日本文化を育ててくれました。特に造船技術と海運の発達は、世界に冠たるものです。

今日、海外諸国と交流する物資の99.7パーセントが、海運に依存するというたくましい現実を目に向け、海の歴史や未来にも思いをはせて、多くの力作をお寄せください。



国土交通大臣賞

「東京ベイサイト」
(東京港)
伊藤 建白

今までにない視点で、期待に応えた力作です。忙しい船の動きを適格に捉え、迫りに満ちた港の活動に、信頼を感じさせます。致し方ないことですが、霽のない日でありたかった。



国土交通省港湾局長賞

「飛鳥寄港」
(八代港)
田中 富美穂

巨大な客船の美と迫力には、たれしも惹かれます。その感動を離れた位置から、見送る人垣と色鮮やかなテープで、見事に表現しています。撮影技術も確かな秀作。



日本港湾協会会長賞

「われは海の子」
(玉野市渋川海岸)
橋本 正夫

地曳き網の体験学習でしょうか。並んで進む生徒の列に対し、急いで作業位置に戻る生徒とで、臨場感が伝わってきます。遠くに見える海上橋が、場所と時代を示しています。